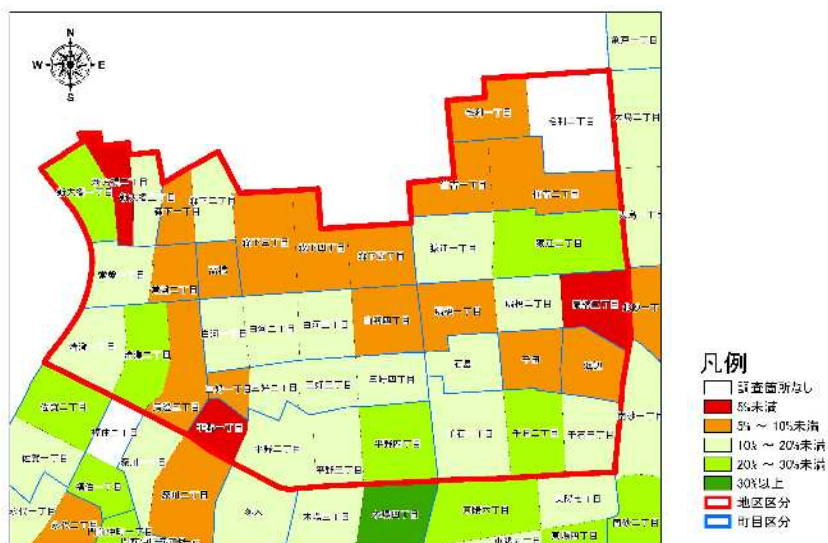


### 3. 緑視率調査

#### 3.4.11 地区別のまとめ

##### 【深川北部地区】

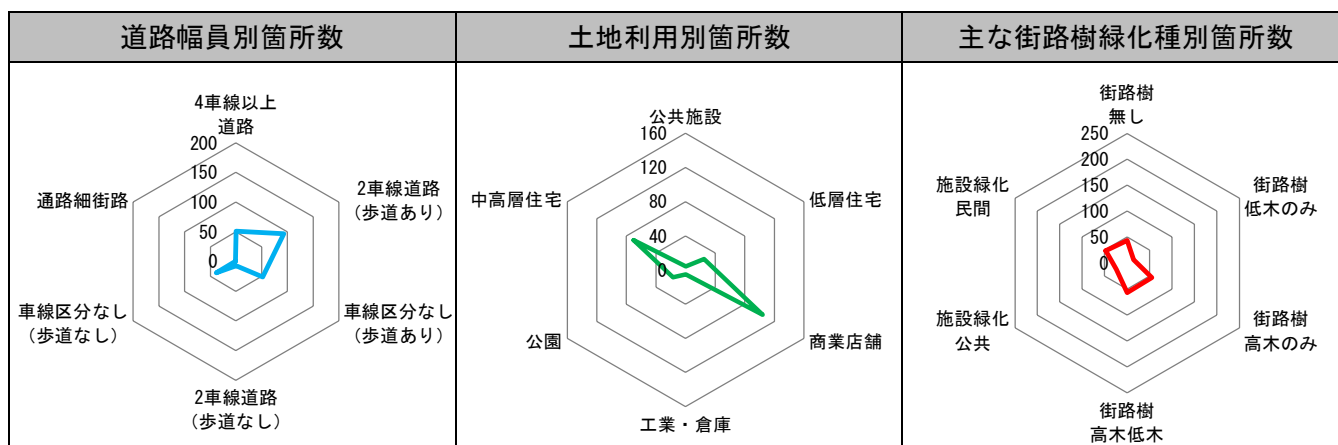


平均緑視率：12.3%

##### 【町目別の平均緑視率】

- 清澄：13.6%
- 常盤：10.5%
- 新大橋：14.5%
- 森下：9.0%
- 平野：15.8%
- 三好：13.5%
- 白河：10.3%
- 高橋：6.4%
- 千石：20.5%
- 石島：18.6%
- 千田：5.3%
- 海辺：7.6%
- 扇橋：8.4%
- 猿江：15.5%
- 住吉：9.1%
- 毛利：8.2%

- 凡例
- 調査箇所なし
  - 5%未満
  - 5%～10%未満
  - 10%～20%未満
  - 20%～30%未満
  - 30%以上
  - 地区区分
  - 町目区分



#### ◆深川北部地区の特性

- ・6地区で最も平均緑視率が低い。
- ・平均緑視率は前回調査から0.3%増加している。
- ・道路幅員は、2車線道路（歩道あり）が多い。
- ・土地利用は、商業店舗や中高層住宅が多い。
- ・主な緑化は街路樹高低木、街路樹高木のみ、施設緑化民間、街路樹無しが多い。

#### 【地区の考察】

- ・主な緑化例をみると、建物は密集しているものの、幅員の広い道路や歩道がある道路沿いには、街路樹が整備されている。しかし、緑視率としては、地区の平均と同等かそれ以下となっている。
- ・緑視率が高いのは、公園付近の調査箇所であり、地区内の局所的な緑化を創り出している。一方で、緑視率が低いのは、市街地の住宅や商業店舗が密集している箇所であり、深川北部地区にはこのような箇所が他の地区よりも多いため、約6割が地区の平均緑視率よりも低い緑視率となっている。
- ・このような状況であるため、新たな緑化空間を生み出すのは難しい地区である。しかし、幅員の広い道路でも、街路樹が整備されていない箇所なども見受けられたため、そのような箇所では街路樹の整備について検討が必要と考えられる。
- ・また、市街地では住宅や民間施設等の敷地内緑化がみられたが、街路樹のように連続した緑にはならないため、緑視率が低い傾向であった。このことから、ベランダ緑化や壁面緑化、フェンス緑化等による区民や事業者による緑化の支援が必要と考えられる。
- ・そのほか、江東区には江東区緑化計画の手引きにより、緑化基準に該当する規模の建築工事、宅地開発を行う際には基準に適合する緑化をするように定めているが、今後、緑化基準に該当しない建物（中高層住宅や商業店舗）に対しても、施設緑化を促すような施策の検討が必要と考えられる。

主な緑化例



主な緑化例 左：1-80-4（緑視率：10.4%）



右：2-5-2（緑視率：11.2%）



主な緑化例 左：1-66-1（緑視率：13.7%）



右：2-63-1（緑視率：7.4%）



緑視率が高い調査箇所 左：2-40-3（緑視率：44.3%）



右：2-69-1（緑視率：43.1%）



緑視率が低い調査箇所 左：2-46-4（緑視率：0.5%）

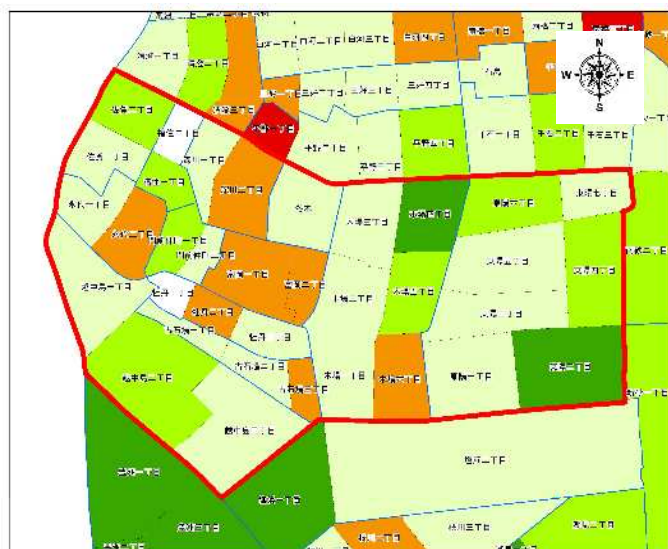


右：2-41-2（緑視率：0.8%）



### 3. 緑視率調査

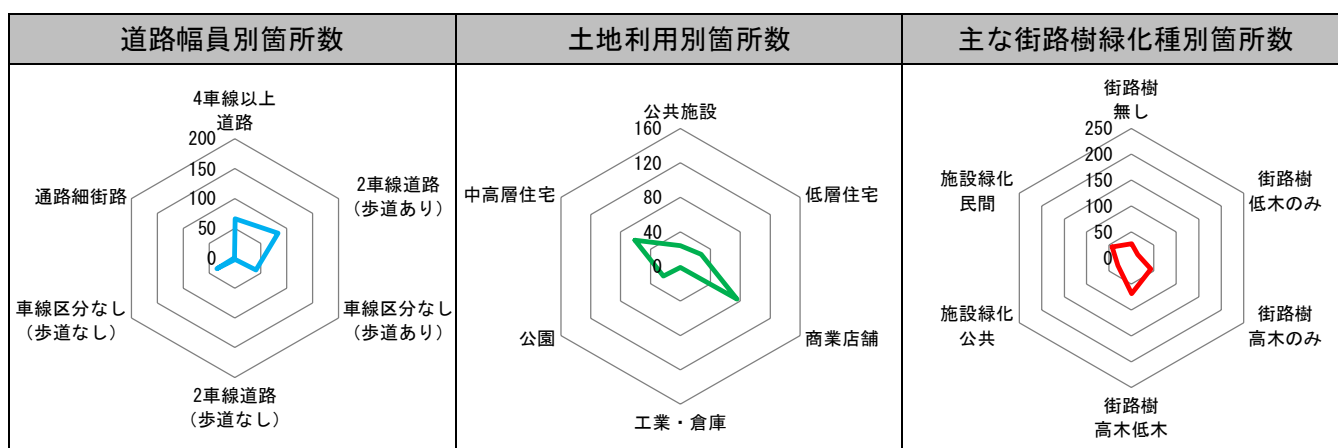
#### 【深川南部地区】



平均緑視率：16.1%

#### 【町目別の平均緑視率】

- 佐賀：18.4%
- 永代：10.5%
- 福住：21.1%
- 深川：10.1%
- 冬木：12.8%
- 門前仲町：15.9%
- 富岡：8.6%
- 牡丹：11.1%
- 古石場：11.8%
- 越中島：21.5%
- 木場：15.7%
- 東陽：19.6%



#### ◆深川南部地区の特性

- ・6地区で平均緑視率は3番目に高い地区となっている。
- ・平均緑視率は前回調査から-0.4%減少している。
- ・道路幅員は、2車線道路（歩道あり）が多い。
- ・土地利用は、商業店舗や中高層住宅が多い。
- ・主な緑化は街路樹高低木が多い。

#### 【地区の考察】

- ・主な緑化例をみると、建物は密集しているものの、幅員の広い道路や歩道がある道路沿いには、街路樹が整備されている。また、そのような箇所の緑視率は深川北部とは違い、地区の平均緑視率と同等かそれ以上となっている。
- ・緑視率が高いのは、公園付近の調査箇所であり、地区内の局所的な緑化を創り出している。一方で、緑視率が低いのは、市街地の住宅や商業店舗が密集している箇所である。このような地区も含め、地区内の約5割が地区の平均緑視率よりも低い緑視率となっている。
- ・深川北部地区と類似した特性の地区ではあるが、街路樹は比較的多い。しかし、新たな緑化空間を生み出すのは難しい地区である。そのため、道路沿いの街路樹だけでなく、ガードレールを緑化ガードレールへ更新するなど、調査箇所の緑の質をさらに向上させる検討が必要と考えられる。
- ・また、市街地では住宅や民間施設等の敷地内緑化がみられたが、街路樹のように連続した緑にはならないため、緑視率が低い傾向であった。このことから、ベランダ緑化や壁面緑化、フェンス緑化等による区民や事業者による緑化の支援が必要と考えられる。
- ・そのほか、江東区には江東区緑化計画の手引きにより、緑化基準に該当する規模の建築工事、宅地開発を行う際には基準に適合する緑化をするように定めているが、今後、緑化基準に該当しない建物（中高層住宅や商業店舗）に対しても、施設緑化を促すような施策の検討が必要と考えられる。

主な緑化例



主な緑化例 左：3-63-1（緑視率：15.7%）



右：2-79-1（緑視率：21.0%）



主な緑化例 左：3-22-5（緑視率：16.5%）



右：2-81-2（緑視率：18.1%）



緑視率が高い調査箇所 左：3-8-4（緑視率：47.7%）



右：3-28-3（緑視率：44.9%）



緑視率が低い調査箇所 左：3-69-3（緑視率：0.6%）

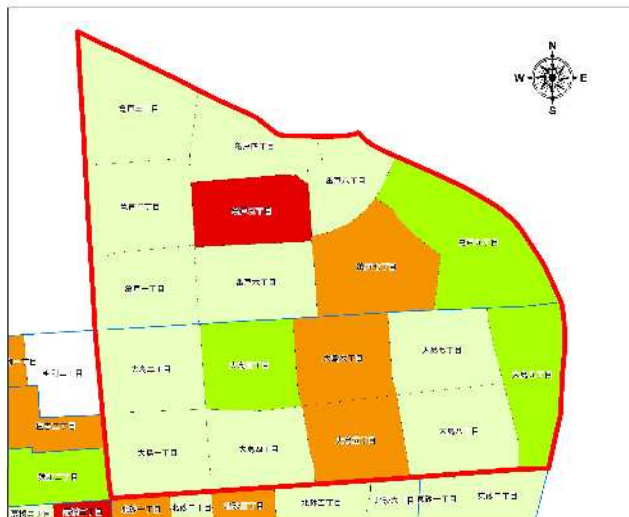


右：3-24-1（緑視率：0.8%）



### 3. 緑視率調査

#### 【城東北部地区】



平均緑視率：14.4%

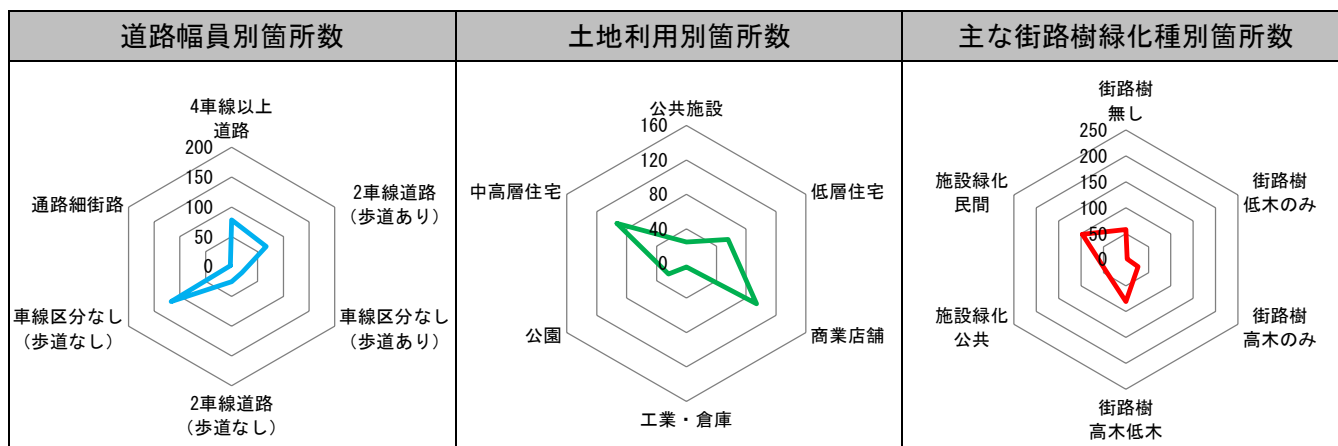
【町目別の平均緑視率】

亀戸：13.9%

大島：15.0%

#### 凡例

- 調査箇所なし
- 0%未満
- 0%～10%未満
- 10%～20%未満
- 20%～30%未満
- 30%以上
- ▭ 地区区分
- ▭ 町目区分



#### ◆城東北部地区の特性

- ・6地区で平均緑視率は2番目に低い地区となっている。
- ・平均緑視率は前回調査から0.2%増加している。
- ・道路幅員は、車線区分なし（歩道なし）が多い。
- ・土地利用は、商業店舗や中高層住宅が多い。
- ・主な緑化は街路樹高低木と施設緑化民間が多い。

#### 【地区の考察】

- ・主な緑化例をみると、建物は密集しているものの、幅員の広い道路や歩道がある道路沿いには、街路樹が整備されている。また、そのような箇所の緑視率は深川北部とは違い、地区の平均緑視率と同等かそれ以上となっている。
- ・緑視率が高いのは、公園付近の調査箇所もあるが、そのほかに住宅地の施設緑化（1-68-1）擁壁の壁面緑化（1-39-3）など、地区内の局所的な緑化を創り出している箇所が複数みられた。一方で、緑視率が低いのは、市街地の住宅や商業店舗が密集している箇所である。このような地区も含め、地区内の約6割が地区の平均緑視率よりも低い緑視率となっている。
- ・深川北部地区と類似した特性の地区ではあるが、街路樹は比較的多い。一方で、民間施設による緑化が多いものの、緑視率は低い傾向にあった。このことから、新たな緑化空間を生み出すのではなく、区民に対して花壇や植木など、個人でも容易にできる緑化活動を促す施策の検討が必要と考えられる。
- ・また、市街地では住宅や民間施設等の敷地内緑化がみられたが、街路樹のように連続した緑にはならないため、緑視率が低い傾向であった。このことから、ベランダ緑化や壁面緑化、フェンス緑化等による区民や事業者による緑化の支援が必要と考えられる。
- ・そのほか、江東区には江東区緑化計画の手引きにより、緑化基準に該当する規模の建築工事、宅地開発を行う際には基準に適合する緑化をするように定めているが、今後、緑化基準に該当しない建物（中高層住宅や商業店舗）に対しても、施設緑化を促すような施策の検討が必要と考えられる。

主な緑化例



主な緑化例 左：1-30-3（緑視率：15.8%）



右：1-12-3（緑視率：18.8%）



主な緑化例 左：1-5-3（緑視率：14.6%）



右：2-16-1（緑視率：18.0%）



緑視率が高い調査箇所 左：1-68-1（緑視率：50.9%）



右：1-39-3（緑視率：49.8%）



緑視率が低い調査箇所 左：1-6-2（緑視率：0.2%）

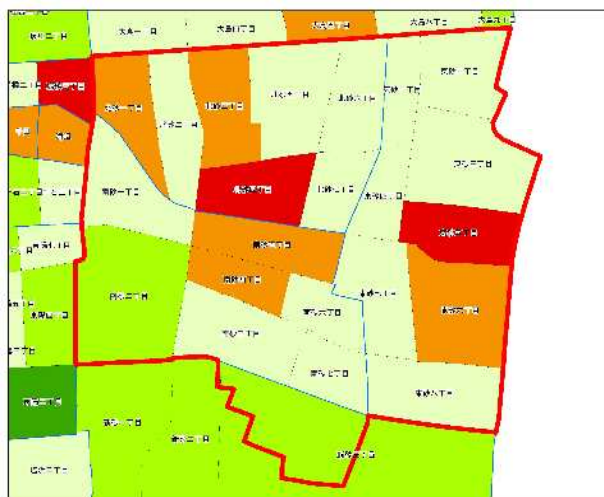


右：1-74-1（緑視率：0.03%）



### 3. 緑視率調査

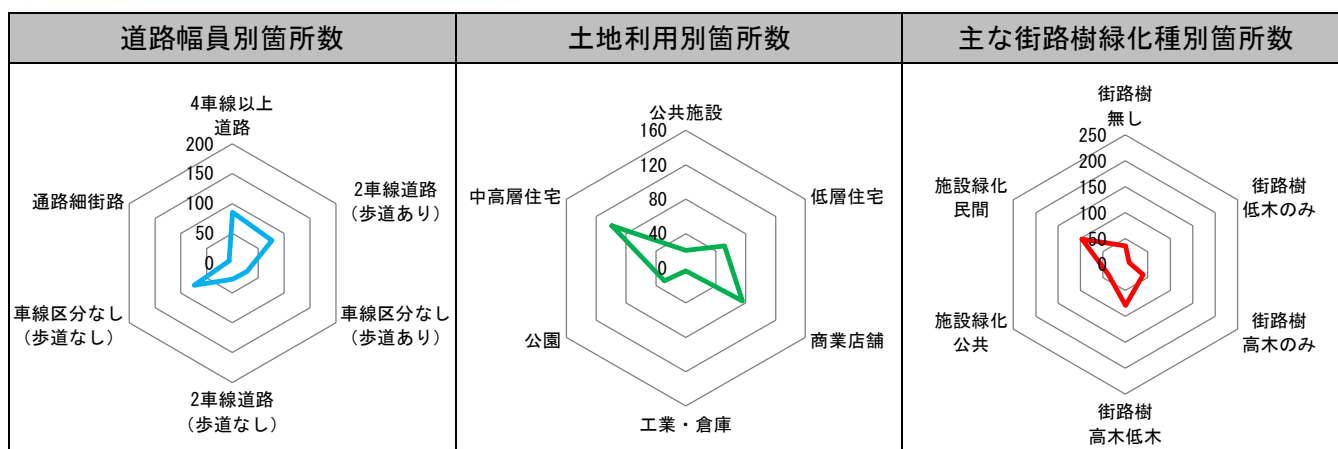
#### 【城東南部地区】



平均緑視率：14.9%

#### 【町目別の平均緑視率】

北砂：13.4%  
 東砂：13.2%  
 南砂：15.7%  
 新砂：22.0%



#### ◆城東南部地区の特性

- ・6地区で平均緑視率は3番目に低い地区となっている。
- ・平均緑視率は前回調査から0.8%増加している。
- ・道路幅員は、4車線以上道路、2車線道路（歩道あり）、車線区分なし（歩道なし）が多い。
- ・土地利用は、商業店舗や中高層住宅が多い。
- ・主な緑化は街路樹高低木と施設緑化民間が多い。

#### 【地区の考察】

- ・主な緑化例をみると、建物は密集しているものの、幅員の広い道路や歩道がある道路沿いには、街路樹が整備されている。また、そのような箇所の緑視率は城東北部と同様に、地区の平均緑視率と同等かそれ以上となっている。
- ・緑視率が高いのは、公園付近の調査箇所であり、地区内の局所的な緑化を創り出している。一方で、緑視率が低いのは、市街地の住宅や商業店舗が密集している箇所である。このような地区も含め、地区内の約6割が地区の平均緑視率よりも低い緑視率となっている。
- ・城東北部地区と同様に、民間施設による緑化が多いものの緑視率は低い傾向にあった。このことから、新たな緑化空間を生み出すのではなく、区民に対して花壇や植木など、個人でも容易にできる緑化活動を促す施策の検討が必要と考えられる。
- ・また、市街地では住宅や民間施設等の敷地内緑化がみられたが、街路樹のように連続した緑にはならないため、緑視率が低い傾向であった。このことから、ベランダ緑化や壁面緑化、フェンス緑化等による区民や事業者による緑化の支援が必要と考えられる。
- ・そのほか、江東区には江東区緑化計画の手引きにより、緑化基準に該当する規模の建築工事、宅地開発を行う際には基準に適合する緑化をするように定めているが、今後、緑化基準に該当しない建物（中高層住宅や商業店舗）に対しても、施設緑化を促すような施策の検討が必要と考えられる。

主な緑化例



主な緑化例 左：3-35-3（緑視率：16.8%） 右：（緑視率：18.7%）



主な緑化例 左：2-96-3（緑視率：17.5%） 右：3-12-3（緑視率：18.8%）



緑視率が高い調査箇所 左：3-94-2（緑視率：43.5%） 右：3-34-2（緑視率：42.2%）

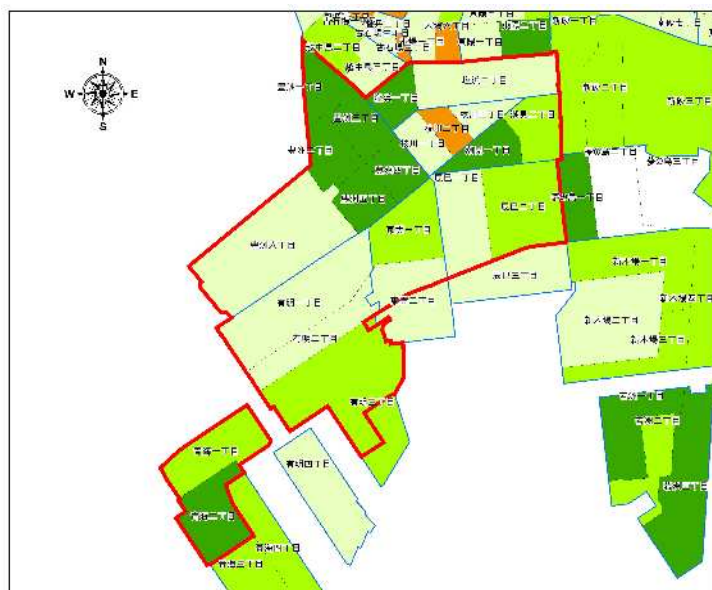


緑視率が低い調査箇所 左：3-80-3（緑視率：0.1%） 右：2-73-2（緑視率：0.3%）



### 3. 緑視率調査

#### 【南部地区】



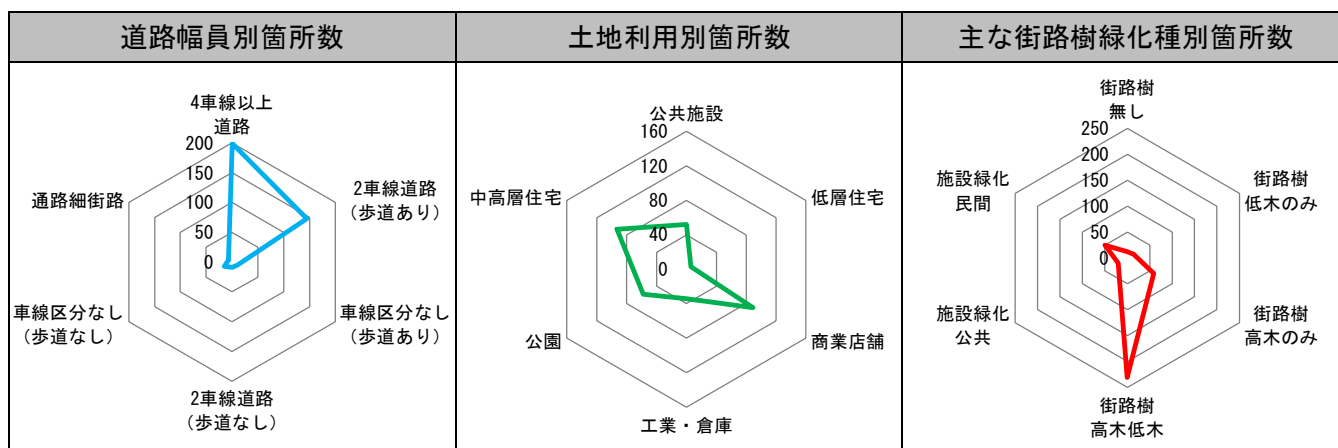
平均緑視率：24.6%

#### 【町目別の平均緑視率】

塩浜：20.2%  
 枝川：12.3%  
 豊洲：31.2%  
 東雲：18.8%  
 有明：18.8%  
 辰巳：20.7%  
 潮見：30.7%  
 青海：30.0%

#### 凡例

- 調査箇所なし
- 5%未満
- 5%～10%未満
- 10%～20%未満
- 20%～30%未満
- 30%以上
- 地区区分
- 町目区分



#### ◆南部地区の特性

- ・6地区で平均緑視率は最も高い。
- ・平均緑視率は前回調査から2.0%増加している。
- ・道路幅員は、4車線以上道路、2車線道路（歩道あり）が多い。
- ・土地利用は、商業店舗や中高層住宅が多い。
- ・主な緑化は街路樹高低木が多い。

#### 【地区の考察】

- ・主な緑化例をみると、幅員の広い4車線以上の道路には街路樹のほかに中央分離帯があり、それらの草木の生長が前回調査時よりも著しく、緑視率が増加したことが考えられる。また、緑視率が高いのも中央分離帯のある調査箇所であった。
- ・一方で、緑視率が低いのは、立体道路や住宅が立ち並ぶ調査箇所であり、このような地区も含め、地区の平均緑視率を下回る調査箇所は全体の約6割と、他の地区と同様の傾向であった。
- ・北側の地区と異なるのは、高木でも北側よりも背の高い高木が多く、中央分離帯にも中木を植えるなどしており、平均緑視率の増加に寄与していた。
- ・また、商業店舗も中高層のものが多く、1棟ごとの敷地が広いいため、施設内緑化も北側の地区よりも多く、街路樹と一体となって緑視率に貢献している調査箇所も複数みられた。
- ・これらの要因により、平均緑視率は地区内で最も高くなっている。また、本調査では、街路樹や中央分離帯の草木などの緑視率に貢献していた緑が、維持管理前の状態の調査箇所もあった。今後も、これら豊富な緑を守るために、継続して維持管理をしていく必要があると考えられる。

主な緑化例



主な緑化例 左：4-19-2（緑視率：34.9%）



右：4-9-3（緑視率：26.9%）



主な緑化例 左：4-65-3（緑視率：28.5%）



右：4-45-2（緑視率：23.8%）



緑視率が高い調査箇所 左：4-5-1（緑視率：63.4%）



右：4-15-1（緑視率：63.0%）



緑視率が低い調査箇所 左：4-58-1（緑視率：0.3%）

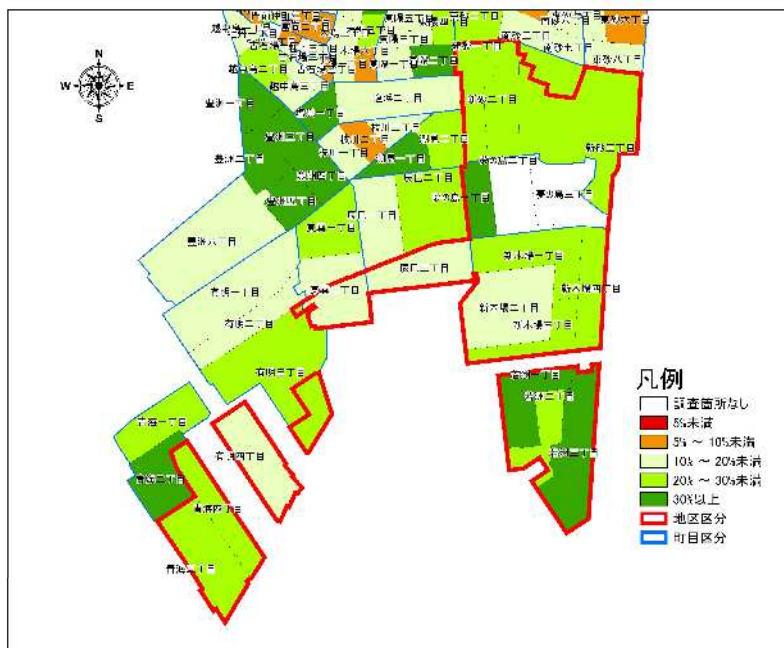


右：4-21-3（緑視率：1.6%）



### 3. 緑視率調査

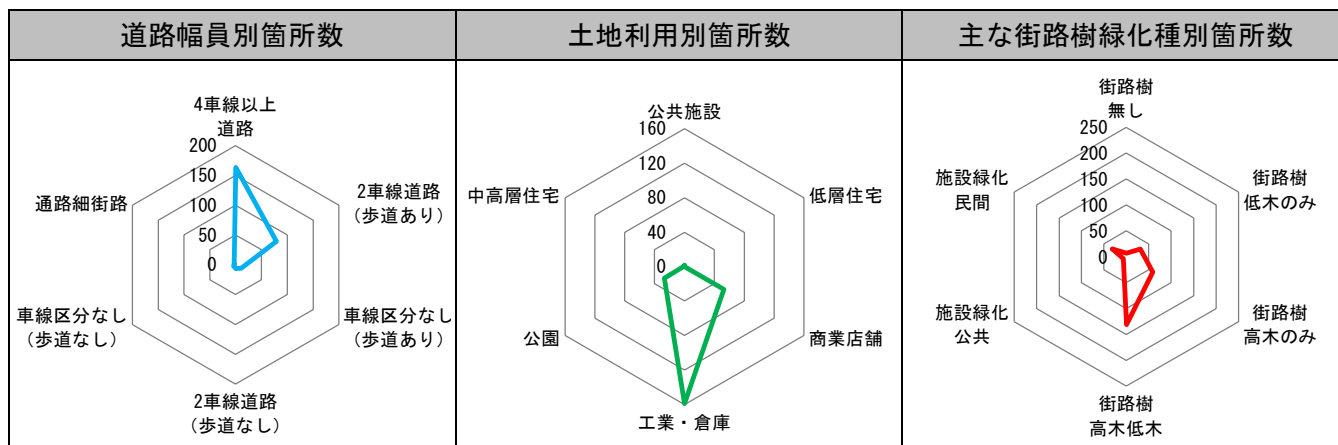
#### 【湾岸地区】



平均緑視率：21.9%

#### 【町目別の平均緑視率】

東雲：18.8%  
 有明：18.8%  
 辰巳：20.7%  
 青海：30.0%  
 新砂：22.0%  
 新木場：22.7%  
 夢の島：36.8%  
 若洲：34.7%



#### ◆湾岸地区の特性

- ・6地区で平均緑視率は2番目に高い地区となっている。
- ・平均緑視率は前回調査から1.0%増加している。
- ・道路幅員は、4車線以上道路、2車線道路（歩道あり）が多い。
- ・土地利用は、工場・倉庫が多い。
- ・主な緑化は街路樹高低木が多い。

#### 【地区の考察】

- ・主な緑化例をみると、幅員の広い道路や歩道がある道路沿いには、街路樹が整備されている。また、そのような箇所の緑視率は、地区の平均緑視率と同等かそれ以上となっている。
- ・緑視率が高いのは、南部地区と同様に中央分離帯のある調査箇所であった。一方で、緑視率が低いのは、立体道路や一部の工場やその駐車場となっている箇所であり、このような地区も含め、地区の平均緑視率を下回る調査箇所は全体の約6割と、他の地区と同様の傾向であった。
- ・北側の地区と異なるのは、高木でも北側よりも背の高い高木が多く、中央分離帯にも中木を植えるなどしており、平均緑視率の増加に寄与していた。
- ・また、工場の施設内緑化が多く、街路樹と一体となって緑視率に貢献している調査箇所も複数みられた。
- ・これらの要因により、平均緑視率は地区内で2番目に高くなっている。また、本調査では、街路樹や中央分離帯の草木などの緑視率に貢献していた緑が、維持管理前の状態の調査箇所もあった。今後も、これら豊富な緑を守るために、継続して維持管理をしていく必要があると考えられる。
- ・そのほか、工業専用地域といった人が住めない地域という特徴もあり、他の地区に比べると緑化余地が多いことが考えられるため、新たな緑化環境の形成を図ることも必要と考えられる。

主な緑化例



主な緑化例 左：4-92-2（緑視率：18.5%）



右：3-74-1（緑視率：24.5%）



主な緑化例 左：4-97-2（緑視率：20.1%）



右：5-81-2（緑視率：19.0%）



緑視率が高い調査箇所 左：4-100-4（緑視率：63.0%）



右：5-62-1（緑視率：66.1%）



緑視率が低い調査箇所 左：4-89-3（緑視率：2.0%）



右：4-89-1（緑視率：1.2%）